花祭り（降誕会）

平成二十七年四月十六日　於於加茂法話会

四月八日は、お釈迦様の誕生日を祝う『花祭り』です。

『普曜経』に、龍王がお釈迦様の降誕を讃え、甘露の雨を灌いで身体を洗浴した事から、甘茶を灌ぐ事になった。私共も甘茶を灌ぐ事によって、私ども自体も、尊い存在である事を自覚して、心のゴミ(欲張り・いかり・愚かさ)三匹の鬼を洗い清め、施し、優しく、正しく「こころに真理の花を」咲かせて生活をする。

佛教徒が一団となって地域の活性化に取り組み、真理の花に包まれた自分達を見出す場所を探し「花御堂」の主人公となる、人類の支柱になれとお釋迦さまは天と地を指しておられるのだと信じています。

父　スッドーダナ(浄飯王)母マーヤ(摩耶)シッダールタが誕生後7日目に死去。
妻　ヤソーダーラ(耶輸陀羅)シッダールタが十六歳の時に結婚。長男　ラーフラ
義母　マハーパジャパティー（摩訶波闍波提）　ヤソーダラの妹（釈尊の叔母）
従兄弟　アーナンダ（阿難）・デーバダッタ（提婆達多）佛紀二五八一年
衆聖点記「しゅうしょうてんき」中国の経典録・『歴代三宝紀』によるもので、釈尊入滅後、毎年一つずつ墨点を加えていったと言われる説。即ち、四八九年に僧伽跋陀羅〈そうがばっだら〉が『善見立毘婆抄』を翻訳したときに九七五個目の点を加えた事を基として、これを逆算して釈尊入滅を紀元前四八五年とした説である。

聖夢　懐胎ほぼ二千五百年以前、北インドの釈迦族のカピラ城にいた摩耶夫人が午睡中に天から白い象が降りてきて、自らの腹に入った夢をみてシッダールタを懐妊したと伝承されている。

この象の牙が6本あったとも、象の上に菩薩が乗っていたとも伝えられる。摩耶夫人が城の近くルンビニー園(藍毘尼園)に行かれた時、産気づき近くの樹に右手をかけた時に無事安産、男子（シッダールタ）を出産した。この樹は安産の故事により無憂樹とも言われる。伝承ではこの時、七歩歩いて、右手で天を指し、左手で大地を指して「**天上天下　唯我独尊**」と唱えたと言う。

この誕生の日が4月8日で釈尊降誕会（花まつり）となっている。正壽寺住職　呉　定明合掌